

GSL育成プログラムについて
GSL＝白百合が目指す、
グローバル・サーバント・
リーダー

仙台白百合学園高等学校

《本日の発表内容》

- 学校概要（生徒作成PPTでご紹介します。）
- GSLプログラムの骨子と運営組織
- 1年次の活動...ふれない探究をさせるには
- 全員参加の『台湾研修』...各班を自在に動かすには
- 2年次の活動...探究の不足を認識させるには
- 探究班や個人の実績（ネパール研修・進路に与えた影響）
- 第一回東北地区SGH課題研究発表フォーラムin杜の都
- 開発アセスメントの様子...2年間の成長を読む
- 英語力の強化...留学生と同じレベルまで養成させよう
- 保護者対策（講演会・GPS-Academic の導入）
- 現在の取組と課題

Welcome to
仙台白百合学園

まずは…学園の歴史

仙台白百合学園中学・高等学校

創立1893年(明治26年) (平成30年度 創立125周年を迎えます)

始まりは・・・1878年、函館にやって来たシャルトル聖パウロ会(SPC)の
3人の修道女からです。



Sr.マリー・オネジム

Sr.マリー・オグスト

Sr.カロリーヌ



《建学の精神》

『愛の心をもって人類社会に奉仕
できる女性を育てる』

《校訓》 従順 勤勉 愛徳

1892年3月24日夜8時:

Sr.イザーク・テュバシュ仙台に来仙。

初代修道院長となり、翌年、仙台白百合学園
の前身である私立仙台女学校を開設。



1912年(明治45年)の卒業式の風景

- ・この頃、定員200名、授業料1円80銭、週30時間
- ・伊達家の御姫様方との交流会も盛んに行われる

1922年
入試倍率10倍
入試科目3科目
算術・読方・綴方



ルルドのマリア像

1945年7月10日、
仙台空襲の際、焼け野原と化した校舎の
傍らに...無傷で残ったマリア像

1978年6月12日、
宮城県沖地震(M7.5、進度5強)
校舎・生徒に被害なし。
花京院校舎のルルドの洞窟において、静
かに倒壊しました。



←この辺り
ルルド

仙台駅から徒歩10分の好立地
明治～大正～昭和～平成とこの花京院の地にあった頃の学園

1998年仙台市泉区紫山に移転。
県立図書館や宮城大学と隣接。
斜め向かいにロイヤルパークホテルがあり、統一されたデザイン。



学園の敷地内には・・・

幼稚園



小学校



レジナパーティスホール
収容人数:1300人
設備機能:市民会館並み





合宿所兼時間外保育 ～マリアハウス～

長期休暇中や土日などに合宿所として利用。

- ・部活の合宿
- ・勉強合宿
- ・教科の合宿
- ・新入生合宿

通常：『スキップ』という名で時間外保育をおこなっています。

★食堂『ステラマリス』

人気メニュー:

からげ丼、ラーメン、手作りデザート



★愛のスコールが男性教員に…

人気! ?



←意外と不協和音な鐘楼



↑床暖機能も完備な聖堂



『はらっぱ』の更に北側にある
現在のルルドのマリア像

マリア様のマントのブルーが
スクールカラーです。(が、こ
のマリア像は白いマントです)

近年、ルルドの周囲に猪が出
没。猟友会の方々が応援に来
たこともあります。
ニホンカモシカや野兎も顔を
出します。

スティーブンの畑が猪にやら
れました・・・(=_=)。

高校について…



白百合のセーラー服が…無い？

2014年、通信制課程(エンカレッジコース)が整備されました。

★体験学習の様子



★卒業式の様子



同じ校舎内に、通信制課程もあり、日々共に生活しています。



朝の静粛の時間

『祈りで始まり、祈りで終わる』のが白百合生の一日です。
制服の上に着ているのが・・・ブルーのタブリエです。



フィリピンボランティアスタディーツアー

仙台白百合学園は、姉妹校の中でも国際教育が盛んです。



**運動会：玉入れはLE、直線ならLS、むかではLです！
LSは運動会より合唱コンクールが得意です！**

年に一度の修養会





12月：クリスマスツリー点灯式

生徒昇降口前のヒマラヤスギに、電飾が灯ります。

聖歌を歌ってキリストの誕生をお祝いする準備をします。

震災の年、このツリーは半分ほど枯れ、3メートルほどしか成長しませんでした。

今は立派に成長しています。

時々、ツリー見物に一般車が入って来こともあります。

姉妹校の中でも・・・
一番大きなツリーです。

おしまい！

なぜ、SGHに？

急速に進展する社会のグローバル化

⇒国境を越えた課題が山積

⇒解決法の必要性

⇒グローバルシティズンとしての自覚と責任

《白百合の視点》

・広がる格差/社会から忘れられがちな人々の増加

『弱い立場にある人々への共感』

『他者のために自分を役立てようとする奉仕の精神』

なぜ、SGHに？

グローバル化がもたらした光と陰に気付き、
弱い立場にある人々に共感しながら、
問題解決のために・・・
人々を支え・活かし・つなげる役割を果たすリーダー

『グローバル・サーバント(奉仕者)・リーダー』を育成

グローバル・サーバント・リーダー=GSL

2015年、SGH2期校となり活動を開始する

GSLに必要な4つの資質

- ◆ 自国文化と異文化の理解と共感、グローバルな視野を育成する
【意識・知識・理解】
- ◆ 異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するための
コミュニケーション能力と協働する力を育成する【技能・スキル】
- ◆ 地球市民の一員として、問題解決のために地域から社会に働き
かける行動力を育成する【態度・姿勢・価値観】
- ◆ 国内外のGSL及び、奉仕の精神を持って生きる人々の信念と活動
を理解、問題解決のために、人を支え・人を活かし・人をつなげる
力を育成する【精神・価値観・意思・行動】

GSLプログラム骨子と運営組織



5教科→教科会へ

運営組織(スパイラルPDCA)

- ◇基本運営メンバー:対象クラスの担任・副担、**教務部長**、**進路指導部長**、SGH運営委員長、事務
- ・毎週1コマ会議:ファシリテーターとして探究班を動かす
各学年のプログラムの運営/補正/導入/企画/発信



中長期検討
委員会週2



校務運営
委員会週1



教科主任
会議



職員会議



各種研修会

内部波及型プログラムのその後

アクティブラーニング研修

『社会と情報』の設定学年の検討
SGH型推薦の校内優先条件の設定

アクティブラーニングの実践と研究

中間報告会/サーバントリーダー講演会

教科独自の関わり:ICTの運用授業の実践/哲学カフェの広がり/探究計画書PPT

NIE型授業の実践/English camp や e-ラーニングの導入

教員独自の関わり:SPCとの連携を深め、海外研修候補地を開拓

事例紹介

《1年次》基本ステージ:探究の基本資質を養成

- * 5つの領域『企業・環境・食・医療福祉・教育』で、
国内をベースに課題解決型探究活動を展開
(ベース:もったいないプロジェクト・・・環境・企業)
(+ α :修道女の精神・活動・・・食・医療福祉・教育)
- * 奉仕の精神で生きる女性を知る活動と本校独自の
リーダー学『GSLプロジェクト』を導入

⇒サーバント・リーダーとしての自覚を促す

《2年次》**応用ステージ: 解決策を導く資質の養成**

海外(台湾)での探究活動から・・・

- *『グローバル化の光と陰』に気付き、『弱い立場にある人々』に共感しつつ、探究活動を通して『地域、国内、アジア』へと連携を広げ、探究を進化・深化させつつ課題解決策を考察・提示
- *海外でつながったリーダーを通して、その精神と行動力を学びつつ、リーダー学の本質を極める

⇒**グローバル・サーバント・リーダーとしての自立を促す**

《3年次》発信から行動へ：人を支え活かしつなげる

- * 共生の社会の実現に向けて、課題解決策を実践
- * SGH課題研究発表フォーラムin杜の都の開催
- * 奉仕の精神で生きる女性と共に行動
- * ⇒グローバル・サーバント・リーダーとしての完成をみる

【GSLプロジェクト・・・日本語版・英語版の発信】

【GSLプロジェクト・・・生徒による教材作成】

目的： リーダーの精神・哲学・言動を学び広める

- ・毎年10人のリーダーを提示
- ・チームで調査探究し、1年次：日本語、2年次：英語で機関紙を作成
- ・3年次、ブラッシュアップ後、姉妹校中心に発信

1年次の活動：ぶれない探究をさせるには

SGH対象生徒=LSからの内部波及型

◇対象生徒(構想)

		LS			LI			LE		
		I	II	III	I	II	III	I	II	III
2015	1年目	29								
2016	2年目	29	29							
2017	3年目	24	29	29						
2018	4年目	○	24	29	○					
2019	5年目	○	○	24	○	○		○		

①活動時間の把握・活動内容の共有・評価の認識

《LSコース=SGH》

《LI・LEコース=4年目以降SGH予定》

- * 総合学習：1単位
- * 年間9回程：土曜日4時間
- * 運用冊子(評価)あり
- * 1年次テーマ：『喜び』
【もったいないプロジェクト】
グループ研究/現場訪問
- * 2年次テーマ：『平和』
グループ研究/長崎研修

- * 総合学習：1単位
- * 年間9回程度：土曜日4時間
- * 年間数回HR/スキマ時間等
- * 実施用プリント活用
- * 1～2年次国内外型探究活動
現場訪問/台湾研修
- * 2～3年次解決策の提示活動
評価：アセスメント・台湾研修
探究計画書・個人の振り返り
論文・発表等々
- 各探究班の活動の可視化と共有
(教室内掲示板等の利用)

SGH課題研究 高 I

- 4月:SGH入門講座/5つの領域・テーマ・課題・探究内容を知る/論題設定とブラウジング/ PCや文献で情報収集/個人のテーマを分かち合う
/探究の仲間を作る(テーマの融合)
- 5月:探究テーマを決定/タブレット内に探究班を構築/探究計画書①
- 6月:探究内容を深める/探究計画書②/アドバイザーの選定/現場訪問準備
- 7月～9月:現場訪問とアドバイザーとの懇談/探究内容のクラス内分かち合い
- 10月:小論文ガイダンスで論じ方を学ぶ/小論文試験で実践力を養成/
中間発表の準備
- 11月:サーバントリーダーとの出会い/台湾研修テーマ構築と探究計画書③
探究計画書(英語版)④
- 12月:GSLプロジェクト始動/台湾の歴史を学ぶ/SGH校との交流会
- 1月～2月:SGHキャリア講演会/台湾研修アンケート作成/台北・台中活動準備
- 3月:SGH中間報告会での発表/年度末発表会/SGH校との交流会/台湾研修へ

②探究計画書＝探究の骨格形成＋英語力養成 仕事の分担/探究の方向性/明確な課題

探究計画書①：記入例を読み取り、班の考えを反映

→複数の教員から改善点を盛り込まれる

探究計画書②：目的・仕事の割り振り・ビジョンが明確化

↓新たな知見との出会い・深まるディスカッション

探究計画書③：探究を整理しつつ台湾研修の立案開始

↓アンケート作成、訪問先の決定、先輩との連携

探究計画書④：台湾研修のため英語版に直す

→台湾の教授陣・暁明女子校との探究ディスカッション、
現地現場訪問、現地成果発表等、全てのベースとなる

③探究アドバイザーとの連携＝タブレットでこまめに モチベーション/新たなつながり(国内外)

2701班【ネパールに女子校設立を目指して】

- ・お茶の水女子大学:内田教授→学長
→台湾大同大学鄭智恵先生
- ・ネパールバンブーツリースクール創立者
- ・ネパールYou me スクール創立者→視察提言旅行へ

2702班【災害時の外国人への援助体制】

- ・東北大学災害科学国際研究所所長:今村教授
→防災枠組への参加・発表→パンフレットの開発
→地域・仙台市の防災関係会議
→FMラジオ・東北放送等各種メディア

全員参加の『台湾研修』

...各班を自由に動かすには

①台湾大学進学者の先輩たちとつながる

- * 2012年9月進学 一回生6名(国立1名、私立5名)
→現在就職して社会人へ
- * 2013年9月進学 二回生5名(国立2名、私立3名)
- * 2014年9月進学 三回生5名(国立2名、私立3名)
- * 2015年9月進学 四回生4名(国立3名、私立1名)
- * 2016年9月進学 五回生5名(国立1名、私立4名)
- * 2017年9月進学予定者7名

グローバル人材と
つながる=キャリア形成

◆先輩たちが台湾での探究活動をサポート

◇中国語・英語・日本語を操る先輩と同じ時間を過ごす

②台北・台中の活動をはっきりさせる

1年3月の7泊8日(4泊:大学OB会館、3泊:ホテル)

《台中(大学を拠点)》

- 英語で・・・中国語・PC学習
生物多様性/プレゼンテーションの極意
- GSL講演会(all English講義)
- グローバル企業訪問
- 高校交流会=探究セッション
- 班毎探究活動(現場訪問)
- 教授陣とディスカッション
- アンケート分析
- 成果発表(英語でプレゼン)

《台北(ホテルを拠点)》

- 総督府研修
- 衛兵の交代式から軍隊の存在を考察する
- 伝統の小籠包・パイナップルケーキのDIYを体験
- 日本語学科の台湾人学生と班別探究活動(現場訪問)
- 故宮博物院/世界貿易センターでの**個人研究(ミッションあり)**

③タイムリーな活動報告は、生徒の手で

《学園HPに掲載》

活動を班毎に担当しレポートに写真やコメントを添えて学園へ

- HP掲載量＝相手を意識し論理的で簡潔な文章表現を学ぶ
- 図、表、写真を掲載・・・

個人の写真ならば了承を得る

その日の活動はその日のうちにHP管理者に送信する。

《研修不参加者の扱い》

台湾との時差1時間のため、スカイプでつなげ、現地の講演会や活動(ディスカッション・アンケート集計等)を共に行う。

他:SGH発表会等に積極的に参加させる

(東北地区SGH課題研究発表フォーラムin杜の都 等)

2年次の活動...探究を深めさせるには



SGH課題研究 高Ⅱ

4月:後輩への探究活動紹介/台湾研修のまとめと分かち合い/活動ポスターの作成 **5月～6月**:台湾研修の成果を探究活動に落とし込み、解決策を考察する/報告書(論文)の作成について学ぶ/アンケート調査・有識者との懇談を精力的にすすめる **7月～8月**:オープンスクールでの発表(ポスターセッション・PPT発表)解決へのアクションとして各種コンクール・コンテストに挑戦する/報告書の進捗状況を確認する **9月**:学園祭での発表・展示 **10月**:小論文ガイダンスで要約・論理的な表現のスキルを養う/小論文模試で実践力を養成する/中間発表会の準備/**11月**:サーバントリーダーとの出会い/報告書の進捗状況を確認する/発表・講演会に参加し、プレゼンテーションスキルをアップさせる/**12月～1月**:SGHキャリア講演会/報告書の第一次提出日 **2月**:学年発表会/解決策の発信 **3月**:SGH校との交流会/中間報告会/東北地区SGH課題研究発表フォーラムin杜の都の参加・発表/SGH甲子園 等発表・発信

①報告・発表→

活動を
深める

←論文作成等まとめる作業

台湾研修の班別活動を軸に
これまでの活動を報告



聴衆の質問に答える＝

気付く

＝データの不足

視点の甘さを認識



- ・有識者・アドバイザーとの連携が密になる
- ・ディスカッションが活発化し、方向性がハッキリする
- ・不足しているデータや分析が進む

②気付き⇒行動・発信へ

2701班:『ネパールに女子校設立を目指して』

- ・現地の様子を知らなくては・・・机上の空論に！
- ・女子の教育が周囲に及ぼす好影響をアピール
- ・独自の差別を生まない教育コンテンツ作成
コンクール・コンテスト・班・個人・・・発信！

⇒コンクール優勝⇒総理公邸で提言活動

⇒ネパールの学校創立者(首都・農村)と直につながる

- ・視察提言旅行を実現
- ・ネパールへの教育支援活動を実践
- ・後輩への探究引き継ぎを実施

探究班や個人の実績(各種成果)

進路に与えた影響

①個人の応募に関して

- * 毎年、各種コンクール・コンテスト等、何か一つは応募してみよう！と声掛けする(夏休みを利用して)
 - * 随時、クラスの応募の様子を掲示する←応募増
- その後・・・
- * 自分たちで検索し、資料等を作成し応募

『職員室前に、応募期限が過ぎたポスターを堂々と
貼らないでいただきたい！』

(頑張る生徒達から・・・お叱りが・・・。)

②グループでの応募に関して

* 報告書(構成に沿って役割が明確)を
課しているため・・・

* 担当教員のチェックが入れ易くなった

* PPTでの発表の際にも、資料作りが短時間になった



前向きに 各種発表に臨む・・・

『先生、尺は何分ですか』

③SGHの活動が進路に与えた影響

- SGHの活動を活かした入試(AO・各種推薦)を
現在考えている・・・

68.9% (現高3年SGH生)

- SGHの活動が自分の進路選択に影響を与えた

75.9% (現高3年SGH生)

**第一回東北地区
SGH課題研究発表フォーラムin杜の都**



発表の場の設定・・・高大連携を活かす

構想は・・・
女性フォーラム
だったのだが...

2017年3月18日(土)19日(日)

18日:仙台白百合女子大学会場(発表)

19日:東北自治総合研修センター(模擬国連)

参加校:青森県立青森高等学校/岩手県立盛岡第一高等学校/盛岡中央高等学校/宮城県仙台二華高等学校/宮城県気仙沼高等学校/秋田県立秋田南高等学校/山形県立山形東高等学校/九里学園高等学校/本校・・・9校

日本語発表:16、英語発表:10、ポスター発表:16

全参加生徒数:130名

- ・(日・英)各発表に講評の先生をすべて用意
- ・主催:女子大、共催:東北大、(次年度、宮城大も参加)

開発アセスメントの様子…2年間の成長を読む

開発アセスメント:生徒用&教員用

《生徒用》

- ・学校設定科目『国際理解』における、生徒評価の観点から作られたアセスメントを深化・進化させたもの
- ・GSLの4つの資質も計れるように改良した
- ・本気で探究活動させた場合・・・

1年次は順調に数値が伸びるが2年次に『自分は足りていない』と判断→数値が下がる←正しい成長なのでは？

《教員用》

- ・グループ毎の中で、個人の活動を評価←担当教員が行う
- ・個人の筆記物←担当教員間で回覧

GSLが備える4つの資質について 生徒自己アセスメント

項目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
1. グローバルな世界を理解するための知識と視点	35.0%	56.2%	68.5%	66.0%
2. 問題を解決するためのスキル	28.7%	50.9%	62.8%	62.1%
3. 地球の一員としての行動への意欲	19.0%	38.8%	51.7%	58.6%
4. サーバントリーダーとしての自覚と行動	37.9%	63.8%	74.1%	71.1%

(5段階評価の4以上の割合)

他開発物:

- * **プレゼンテーション用評価表**・・・他SGH校の活用シートを土台に仙台白百合女子大学牛渡前学長と共に。
3月フォーラムで使用→内外に波及
- * **報告書(論文)評価表**・・・他SGH校の形式を参考に
評価項目を抽出済み→今後、中央大学名誉教授田中卓男先生と評価へ

英語力の強化...

留学生と同じレベルまで養成させよう

**(目標：留学しなくても、英語を自在に使い
意思を持って話す生徒を育成する)**

SGHクラスの英語の授業:C英Ⅰ、C英Ⅱ

学習項目	学習内容
語彙力	毎週50個の単語テストで教材を一巡。二巡目から毎週100個。毎授業の開始10分を単語練習に充てる。
Speaking力	提示したテーマで1分間スピーチのペアワーク後、4人グループで英語による意見の分かち合いを実施。全体で代表者のスピーチ後、理解のまとめを行う。毎授業の15分。
Listening力 Reading力	初見の文章でCDのリスニングとTorFQuestionで内容確認後、本文の黙読で解答の確認を実施。その後、音読を繰り返す。
Writing力	単元内容の終了後、テーマ課題を提示し英語で表現。分量はB5サイズ1枚。
Writing力の スピード強化	2年次後半は、1分間スピーチを3分間ライティングに変更。
その他	TOEFL・TOIEC講座の通年開講(週1回放課後) 留学生との懇談会の積極的实施

SGH対象生徒の取組の結果

指定1年目の生徒の2年終了時点で…

英検2級取得:69%

TOIEC受験者最高点:710点

宮城県英語弁論大会1位(東北大会入賞)

東北大学主催 日英サイエンスワークショップ(2名)

- ・ 保護者対策
（講演会・GPS-Academic の導入）
- ・ 現在の取組と課題

《保護者対策》

- ・講演会の企画・実施
- ・各種発表への保護者の参加啓蒙
- ・GPS－Academicの導入決定
- ・タブレットの有効活用

《今後の課題》

- ・内部波及型プログラムの提示
- ・探究における教員間の目線合わせ
- ・外部への活動告知・発信の強化

以上

現在の探究班

2701 班『女子教育の進展のために何ができるか～ネパールに女子校設立を目指して～』

2702 班『災害時の弱者への援助体制について』

2703 班『企業の海外進出における問題点とは？』

2704 班『つなげよう飢餓と飽食』

2705 班『社会福祉の視点から日本の高齢社会について考える』の国々を』

2706 班『歴史認識を乗り越え、良好な関係を築くには？』

2707 班『バナナから見るフィリピンの経済格差』

2801 班『消費者目線で農薬問題を考える』

2802 班『日本古来の食習慣を世界へ』

2803 班『健康寿命を食で伸ばすことはできるのか』

2804 班『再生可能エネルギーの普及を考える～私たちの再エネモデルプラン～』

2805 班『教育～カンボジアの教育の負のサイクルを断ち切る～』

2806 班『身近なところから食品ロスを減らそう』

2901 班『日本古来より伝わる柿を使って限界集落の再生できるのか』

2902 班『災害時における貧困者・高齢者への支援について』

2903 班『発展途上国における医療福祉について』

2904 班『発展途上国における女子教育について』

2905 班『客観的な視点の歴史教育を実現するには』

以上

